

明治二十五年三月新刊

日本水路誌 第一卷

水路部



水路部	部	水	原備
1	4	舊	











日本水路誌卷一序

我沿海ノ水路誌ハ寔瀛水路誌第一卷上下二冊ニ分テ刊行セン所今般日本水路誌ト改稱シ之ヲ左記ノ五卷ニ分テ漸次ニ修正改版スルノ目的ナリ

第一卷ハ日本沿海總記、東京海灣、本洲東岸、南方諸島

第二卷ハ東京海灣ヨリ南面海岸ヲ經テ鹿兒島海灣ヨリ南西諸島ニ至ル

第三卷ハ日本内海

第四卷ハ鹿兒島海灣ヨリ北西面海岸ヲ經テ津輕海峽ニ至ル

第五卷ハ北洲及北東諸島

本書ハ則チ第一卷ニシテ寔瀛水路誌第一卷上ノ第一第二第三第四編ノ修正改版ニ係ル而シテ其編纂ノ起原ハ則チ左ノ如シ

第一編ハ日本沿海總記ニシテ其中、國勢、氣候、潮汐ノ部ハ重ニ明治五年以後ノ我水路部及諸官廳ノ實驗等ヲ參酌ス

第二編ハ東京海灣ニシテ館山灣及其附近ハ明治廿四年海軍大尉三浦義深及



海軍少技士大後五郎等ノ測量其金田灣ハ明治十八年海軍中尉金木十一郎ノ  
測量浦賀ハ明治廿一年海軍大尉小林春三ノ測量横須賀ハ明治廿一年海軍大  
尉高野瀨廉ノ測量横濱ハ明治六年ヨリ十七年ニ至ル海軍大佐柳猶悅及海軍  
大尉高野瀨廉ノ測量

第三編ハ本洲東岸ニシテ其七北田川ヨリ金華山迄ハ明治十四年十五年海軍  
大尉加藤重成ノ實測記事金華山ヨリ宮古迄ハ千八百八十七年及全八十八年  
英國軍艦オーデーシアス號乗員スタッフコンマンダードーグラスノ實驗筆

記ト明治十五年海軍中尉三浦重郷ノ實驗筆記トヲ參酌シ黑埼ヨリ尻矢埼ニ  
至ル迄ハ重ニ明治十七年海軍中尉荒畑岩次郎ノ實驗筆記ヲ取ル

第四編ハ南方諸島ニシテ大島ヨリ八丈島迄ノ水深及錨地等ハ明治二十年四  
月郵船會社汽船千歲丸ノ實驗小笠原島ノ天候物産等ハ東京府ノ調書ニ依テ  
補述ス

前述ノ外ハ總テ千八百八十四年出版英國水路部編纂支那海水路誌第四卷ニ



據リ傍ラ明治二十五年一月迄ノ諸報告、告示等ヲ取り之ヲ修補ス  
此書中ニ於テ謬誤ノ點アルカ又ハ追加ニ價值アル諸要件ヲ發見シタルハ  
速ニ水路部エ報告アラシムヲ希望ス

明治二十五年一月一日

水路部長海軍大佐肝付兼行





ロサリオ島 海軍海圖第一二九號參照

此島ハ北緯二十七度十六分東經百四十度五十一分ニ當リ父島ノ西ノ北約七十里ニアリ東西長約一里ニシテ最高處ヲ百四十八呎トス地礫确ニシテ沿海ニ數多ノ孤立岩アリ又島ノ四周ハ磯波猛烈ニシテ上陸シ難シ

火山列島 海軍海圖第一二九號參照  
ウォルカン・アイランズ

東南方 名 里

此列島ハ天文十二年(距今二百四十八年)嘗テ西洋人ノ發見スル所ニシテ三箇ノ島ヨリ成ル今明治廿四年九月ニ至リ我邦小笠原島ノ屬島ト定メ新タニ名稱ヲ附セラレタリ乃チ其北ニアルヲ北硫黃島(洋稱サンアレサンドロ)ト曰ヒ中央ニアルヲ硫黃島(洋稱

サルファ)ト曰ヒ南ニアルヲ南硫黃島(洋稱サンオーガスチノ)

ト曰フ

南硫黃島



硫黃島



東 北 東

此島ハ平頂ノ一方形山ニシテ高<sup>サ</sup>三千二十九呎廣<sup>ク</sup>約一里其位置ハ北緯二十四度十四分東經百四十一度二十八分トス  
硫黃島

此島ハ長<sup>ク</sup>東北東ヨリ西南西ニ約五里其中央ハ北緯二十四度四十六分東經百四十一度十九分トス其南角ハ平頂ノ秃山ニシテ高<sup>サ</sup>六百四十四呎西南西ヨリ望メハ瞭然一噴火口ノ觀チ呈ス此秃山ハ長<sup>ク</sup>三四里ニ亘ル所ノ低且狹ナル頸地ニ由テ島ノ北端ト連絡ス此處ニ於テ煙又ハ蒸氣ノ噴出スルヲ見シモノアリト云フ

該北端ノ頸地ニ面スル方ハ二三ノ叢樹アリ綠色ヲ呈ス然レ<sup>モ</sup>其北東方ハ不毛ニシテ岩石分立シ白色岩多シ  
島ノ東側ヲ距ル二里半又西側ヲ距ル半里乃至一里半ニ最モ危險ナル礁脉アリ然レ<sup>モ</sup>島ト東側ノ礁トノ間ノ水道ハ障碍



ナシ島ノ南東側ヲ距ル<sub>五</sub>里ノ處ハ百尋ニシテ噴火石底ナリ

### 北硫黃島

此島ハ北島ニシテ南北長<sub>二</sub>里幅一里半高<sub>二</sub>二千五百三十四呎ナリ南方ヨリ望メハ一山ノ如シ此山峰ハ北緯二十五度二十四分五十四秒東經百四十一度十五分四十五秒

島ノ南西端ニ上陸處アリ島ノ北及東側ハ陡界ニシテ其南端ヲ距ル一里ノ處ハ四十尋ナリ其西邊ニ於テハ水深種々ニシテ海底凹凸定リナシ

### 海底火山

千八百八十年米艦アラート號ノ報告ニ據レハ同艦ハ北硫黃島ノ北端ヨリ西<sub>五</sub>北約一<sub>五</sub>里ノ處ニ於テ海底火山ヲ見タリ其形狀タル鈍響ニ伴フテ泥塊及粉灰ヲ噴起シ且硫黃ノ臭氣ヲ發セリ此發生シツ、アル礁嶼ノ南半里ニ於テハ水深十尋乃至二十尋又南東七鏈半ニ於テ一礁灘アリ又夜ニ於テ火焰ノ升ルヲ見タリト云フ又其翌年五月アラート號カ此地ニ再來ノ時ニハ吐燄已ニ



熄ミ長<sup>サ</sup>約里ノ水色淡ナル新月形ノ一礁灘ヲナセリト云フ

明治二十二年十二月我商船南洋丸渡航ノ際モ亦噴火ヲ見スト云フ

マリアナ群島ノ一部 西班牙領

マールカス島 一名ウイークス島

此島ハ長<sup>サ</sup>約五里卑低ニシテ沙多ク樹木及灌木茂生ス島ノ中心ニ近ク一山アリ其高<sup>サ</sup>約二百呎又一礁アリテ島ノ北方ニ擴延ス 千八百六十四年大佐ケレツト其他數人ノ報告

此島ハ其位置北緯二十四度十四分東經百五十四度ニシテ高<sup>サ</sup>僅ニ六十呎廣

潤ノ礁脈アリテ其東西二角ヨリ斗出ス 千八百七十四年米艦タスカロ  
一ラ號長ベルナツプノ記事

此島ハ北緯二十四度三十分東經百五十三度五十七分ニ位シ前記ノ位置ヨリ

北方六里西方三里ノ處ニアリ南北ノ長<sup>サ</sup>約一里半幅<sup>ヲ</sup>三里高<sup>サ</sup>六十呎ニシテ

白色ノ沙濱圍繞ス而シテ其北東角ヨリ半里餘ノ間ハ破浪岩擴延ス 千八百八十年佛  
艦イクライリユ

一號艦長フオールニ  
ノ檢測(米國水路告不)

此島ハ北緯二十四度三十分東經百五十三度五十七分ニ位シ前記ノ位置ヨリ



北方六里西方三里ノ所ニアリ

ロスジャーデーンス島 又マーシャル島

千七百八十八年英艦スカルボロー號ノ艦長マーシャルハ北緯二十一度四十分東經百五十一度三十五分ノ地ニ於テ二座ノ小島ヲ發見セリ蓋シ此二島ハ千五百二十九年アルバロ、デ、ソーベドラノ發見セシロスジャーデーンス島ト同一ノモノナラント思ハルレニ此二島ニ關シテハ今日唯、漠然タル風聞アルノミ

ユーフ<sup>#</sup>ロシン礁

此礁ノ位置ニ關スル數回ノ報告ハ殆ト皆符合スルカ故ニ其存在ハ疑ナキモノトシテ海圖ニハ北緯二十一度四十三分東經百四十度五十五分ノ地ニ記載セリ然レニ千八百八十六年二月二十五日合衆國軍艦オシピー號カ此位置ヲ通過セシニ更ニ危險ノ徵ヲ認メサルノミナラス其近傍ニ於テ百尋ノ錘索ヲ投シ尙ホ底ヲ得サリシト云フ



パレーズベラ礁 又トーグラス礁

此礁ハ千七百八十九年大佐ドーグラスノ發見ニシテ北緯三十度三十一分東經百三十六度六分ニ位ス千八百四十八年三月英艦マリア號ノ乘員スプロールカ此礁ノ一部ヲ驗測セシ時ノ記事ニ曰ク該礁ハ長方形ノ鹹湖ヲ圍ミタル狹窄直立ノ石花堤ニシテ其北面及北東面上ニハ波浪烈シク翻跳ス余ハ端艇ヲ該礁ノ風影ニ漕行キ該礁ノ長<sup>サ</sup>一里ニシテ其幅ハ東角ヲ距ル<sup>ズ</sup>里ノ處七鏈ナルヲ認メタリ又寄浪ノ間ヨリ時々尖頭ノ石花礁出沒シ且高<sup>サ</sup>約十五呎長<sup>サ</sup>十五呎ノ一孤立岩アリテ該礁ノ西端ニ近キ穩水湖中ヨリ突起スルヲ見タリ初メ此岩ヲ本艦ヨリ三里ヲ隔テ、望ミタル時ハ恰モ端艇ノ黃褐色ヲグスル(帆)ノ如ク見ヘタリ○此礁ハ極メテ接近スルマテハ見ヘサルカ故ニ船舶ノ之ニ近カントスルモノ最モ注意ヲ加ヘサル可ラス暗夜及強颯連吹ノ時殊ニ冬季暴風ノ流行スル時ニハ尙ホ一層ノ警戒ヲ用井サル可カラス○大頭鯨及各種ノ魚類多シ



島スロヤジパ



里七十西

島スロヤジパ



里六至乃里五西南

フアラロン、デ、パジャロス島

此島ハ火山列島ノ南東方約三百里ニ當  
 リマリアナ群島ノ最北島ニシテ長<sup>サ</sup>及  
 幅各一<sup>ノ</sup>里北緯二十度三十二分二十七  
 秒東經百四十四度五十三分四十七秒ニ  
 位ス島ノ頂ハ島ノ西端ニアリテ黑色ノ  
 濫石<sup>ラバ</sup>上ニ薄鳶色ノ灰燼堆積シテ正圓錐  
 形ヲ爲シ其高<sup>サ</sup>大約千二十九呎今尙ホ  
 吐烟盛ナリ島ノ北、南、東ノ三面ハ絶壁  
 直立シ其附近ニ已知ノ一危険ナシ島ノ  
 南東面ニ一大岩アリテ島ト連絡ス更ニ  
 南スレハ較<sup>シ</sup>小ナル數岩アリ其一最モ  
 著明ナリ南西面ニモ亦南東ノモノニ似



島列スカラウ



東北△

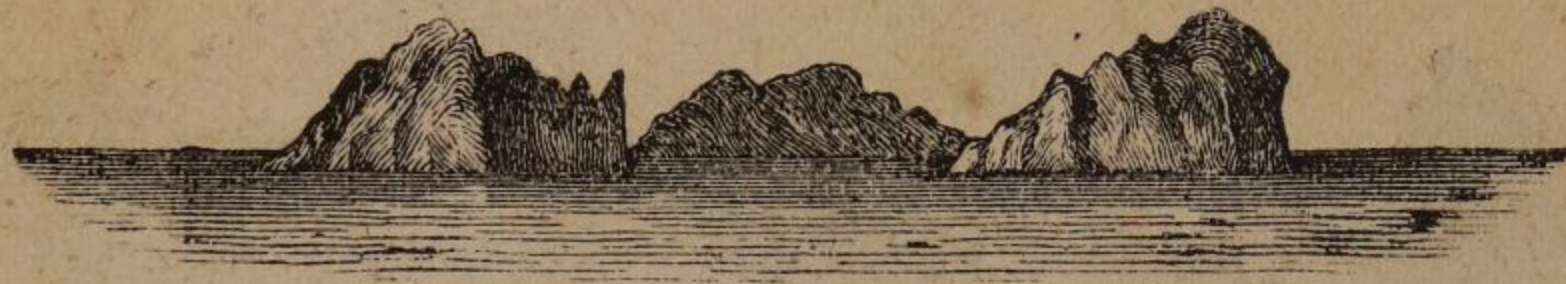
タル一岩アリ要スルニ此島ハ各側皆陡險ニシテ唯西  
 一面ノミ山勢徐々ニ傾斜ス然レモ此面附近ニハ一淺堆  
 アルノ狀ナキカ故ニ一里以内マテ近ツクテ得ヘシ又此  
 島ハ南岸ニ唯一二三ノ草木疎生シ餘ハ皆不毛ナリ但シ  
 此島ニ於テ錨地ヲ得ヘキヤ否ハ未タ詳カナラス

ウラカス列島

此列島ハフアラロン、デ、パジャロス島ノ南東ニ南約三十六  
 里ニ在ル多岩ノ群島ニシテ北緯二十度七分東經百四十  
 四度二十分ニ位ス此列島ハ三嶼ヨリ成リ西嶼ハ最大ニ  
 シテ北東嶼ハ最小ナリ此三嶼ハ地勢頗ル高クシテ凹凸  
 鋸齒ヲ爲シ且三嶼間ニ直徑約二里乃至三里ニ互ル鹹湖  
 的ノ一面水ヲ抱ケリ蓋シ此列島ハ元ト一箇ノ圓錐形火  
 山ニシテ其巔ノ陷没セシモノナルカ如キ觀ヲ呈ス



島列スカラガ



西北西

此三嶼ノ海岸ハ殆ト相結ンテ一圈ヲ爲シ其斷處ハ礁脈之  
ヲ連絡ス三嶼ノ外面ハ陡岸ニシテ其外傍ニハ已知ノ危険  
ナシ○此列島ニハ植物ナク唯西端ノ頂ニ近ク纔ニ苔ヲ  
生スルノミ

警戒

臺灣トマリアナ及小笠原群島トノ間ヲ航スルモノハ海圖  
ニ載スル所ノ各島嶼及淺灘ニ近ツク時ニハ非常ナル警戒  
ヲ用井サル可カラス就中夜中若クハ天暗ク霧多キ日ニハ  
尙ホ一層警戒セサル可カラス何トナレハ是等ノ島嶼及淺  
灘ハ其存否ノミナラス其位置スラモ尙ホ且未詳ノモノ多  
ケレハナリ